

ありがとう市民会館

昭和39年6月30日に多くの市民の要望を受けて完成した彦根市民会館は、当時の設計、工事施工などの最高技術を取り入れ、あらゆる文化活動に適するように計画された多目的ホールでした。市民の文化活動の中心施設の一つとして、これまで長きにわたり活用されてきた市民会館が、6月30日(水)をもって57年の歴史に幕を下ろします。

☎ 文化振興課 ☎ 23-7810 ☎ 21-3080



昭和39年
(1964年)

▲昭和39年1月に撮影された市民会館
(シブヤ写真館提供 彦根市文化財課所蔵)



令和3年
(2021年)

▲同じ角度で撮影した現在の市民会館
(令和3年5月撮影)

開館式の様子



昭和39年6月30日に行われた彦根市民会館開館式では、同日に彦根名誉市民称号贈呈式、彦根市功労者表彰式が行われた後、人形浄瑠璃が上演されました。

また、竣工祝賀記念行事として、5日間にわたり、市民参加による日本民謡や市内小中学校の音楽大会、歌合戦や市民演芸大会などのイベントが繰り広げられました。

彦根市民念願の文化拠点の誕生に、会場はお祝いムードでいっぱいだったようです！



データで見る市民会館

- 設計者：高橋 貞太郎
- 総工費：約2億9千万円
- 工事着工：昭和38年3月29日
- 完成：昭和39年6月30日
- 建設寄附金：87,537,645円

●設計者：高橋 貞太郎 (1892年6月26日～1970年10月1日)
彦根市出身の建築家。帝国ホテル新本館、上高地ホテルなどホテル建築で名高い。他にも高島屋日本橋店など多くの建築を手がけた。

建設寄附金へのお礼 総額 87,537,645円

市民会館は各方面からの寄附金によって建設が可能になったと言っても過言ではありません。
多額の寄附をいただいた皆さん、本当にありがとうございました。

当時の写真から振り返る

市民会館5つの機能

現在は主に貸館業務や市役所の一部の部署の事務所として使用されている市民会館ですが、かつては食堂や結婚式場など、5つの機能を持つ大型複合施設でした。当時の写真と共に、その歴史を振り返ってみましょう！

市民会館閉館に伴い、当時の資料などを展示するイベントを開催します！

【日時】7月8日(木)～同11日(日)
9:00～17:00

【場所】市民会館(尾末町)
1階ギャラリー

※詳しくは広報ひこね
7月号に掲載します。

1 第1ホール (大ホール)



舞台正面幅18m、奥行11mで、講演会・演劇・音楽・舞踏などの催しに利用できました。当時では最新の設備を備えており、冷暖房が完備されていました。

2 第2ホール (中ホール)



舞台正面幅11m、奥行4mで、音響・照明の設備を有し、中規模講演会・演劇・音楽・舞踏などの催しに利用できました。結婚式の披露宴会場としても多く利用されていました。

3 結婚式場



神殿が設けられており、ピーク時には年間約260組の皆さんがこの会場で挙式されました。



▲和室(着付けなどに利用された)



▲結婚式控室

「いったい何組のカップルがここで結婚式を挙げたのだろうか？」

4 食堂 (レストラン「ニューヒコネ」)



市民会館の1階にあり、冷暖房完備、200人の同時利用が可能でした。食堂内は2つに分離することもでき、各種パーティーにも対応できる仕様でした。

5 会議室



現在に至るまで貸館業務を行っており、各種会議、サークル活動などにご利用いただきました。